

審判上の確認事項

審判委員長 下地三保子

1. 本大会は2023年度公益財団法人日本バレーボール協会6人制競技規則及び（公財）日本中体連バレーボール競技部における6人制の取り扱い、本大会の申し合わせ事項により実施する。
2. ラインアップシートがセカンドレフェリーまたはスコアラーにいったん提出されたら、正規の選手交代をせずに、ラインアップを変更することは認められない。
3. 監督は、記録席に一番近い席に位置し、ラリー中はベンチに座ること。
ただし、大会2日目の準決勝からは、以下のように取り扱う。
監督は、試合を妨げたり、遅らせたりしなければ、自チームベンチ前のアタックラインの延長線から競技コントロールエリアのコーナーにあるウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。
4. 監督がタイムアウトを要求するときは、公式ハンド・シグナルを示すこと。
5. ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。
ボールをプレーする動作の中には、（主に）踏み切りからヒット（またはプレーの試み）、着地までが含まれる。
6. 競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。
疑問がある場合には、ゲームキャプテンを通じてのみ説明を求めることができる。
7. 選手のユニフォーム（上下）、ソックスの色とデザイン（リベロを除き）は統一されなければならない。くるぶしが完全に隠れる長さであること。アンダーウェアが襟元や袖口、パンツの裾から出てはならない。
8. 番号はユニフォームの胸部と背部の、それぞれ中央に付けなければならない。番号の色と明るさは、ユニフォームと対照的でなければならない。
9. リベロについて
 - (1) リベロプレーヤーは、チームの他の競技者と対照的な色のユニフォーム（ユニフォームのデザインは異なっていてよい）、または、ビブス（ゼッケンのようなもの：このビブスは、高さ15cm以上の「L」の文字をつける）を着用しなければならない。また、リベロプレーヤーが2名いる場合は、他のチームメンバーと同様に、2名が異なった番号を付けるか『ビブス』の色を変える必要がある。
 - (2) タイムアウト後、プレーヤーがコートに戻る場合は、タイムアウト直前のプレーヤーであること。もし、リベロが交代するときは、一旦6人がコートに戻った後に交代すること。
 - (3) 交代する選手同士、互いに接近し、誰と誰が交代するのかがはっきりわかるように交代する。
※交代は、必ずリベロリプレースメントゾーンで行うこと。
 - (4) リベロはチームキャプテンにも、ゲームキャプテンにもなることができる。
10. 選手は、ケガの原因となるような物（金属製のヘアピン、サポーターなど）や装飾品（ヘアバンド・ネックレス・ブレスレットの類）を身につけることは禁止される。（本大会申し合わせ事項）
11. 3セット目、13点のコートチェンジ後に副審にポジションの確認をさせる際に、次のローテーションに移るチームは、ローテーションが変わった状態で確認をさせる。その場合、サーバーはサービスゾーンにいて構わない。リベロがポジションIV（前衛レフト）に動くときも、リプレースメントをせずにそのまま確認をさせ、確認終了後にリプレースメントを行う。

※注意事項

医療を目的としたサポーター類は、プレー上危険がある場合や、プレーに有利に働く場合を除いて、規制されない。《日本中体連バレーボール競技部より》

- 衛生面の観点から、ホイッスル（短管、長管）をチームで準備してください。

7.4 ポジション

サーバーによりボールが打たれた瞬間、両チームは(サーバーを除き)それぞれのコート内で、ローテーション順に位置していなければならない。

7.4.3 選手のポジションは、次のとおりコート面に接している両足の位置により決定され、コントロールされる。

7.4.3.1 各バックプレーヤーは、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足と同じ位置か、センターラインより離れた位置にいなければならない。

7.4.3.2 ライト(レフト)サイドの各選手は、少なくとも片方の足の一部が同じ列の他の選手のライト(レフト)側から遠くにある足と同じ位置か、ライト(レフト)のサイドラインに近い位置にいなければならない。

(注)

- 1 サービスが打たれた瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。
- 2 バックプレーヤーの両足よりも、対応するフロントプレーヤーの両足が完全に後方に位置しなければ、反則とはならない。
- 3 ライト(レフト)サイドプレーヤーの両足よりも、同じ列のセンタープレーヤーの両足が完全に右(左)側に位置しなければ、反則とはならない。